



例年になく暖かい関東の冬も、クリスマスを過ぎて朝晩はめっきりと冷え込むようになりました。年末であわただしくお過ごしのことと思います。

1. 第3回糖尿病・循環器研究会が開催されました。

12月11日、年末にもかかわらず大勢の先生方にご参加いただき、ありがとうございました。

研究会では、進捗状況の報告と、ベースラインデータの解析結果が発表されました。

12月10日現在で登録症例は880件、そのうち664症例について「登録時症例報告」をご返送いただきました。ご多用の時期に報告書を作成くださり、ありがとうございました！！



ベースラインデータ解析：



患者背景、登録時のHbA1C、糖尿病罹病期間、動脈硬化リスク合併率、登録時の治療の内訳などについて、まとめが行われました。さらに、来年5月19~21日、札幌で開催される第54回糖尿病学会に、SPIRITS-J研究の概要および登録時症例データに関する発表の抄録が提出されたことが報告されました。また、今後のSPIRITS-Jの取り組みについて、症例3,000例を目標に、登録期間を当初の平成22年12月末から平成23年3月末に延長(研究実施期間は平成23年9月30日まで延長)すること、研究終了後は、日本で数少ない疫学的コホート研究として、前向きに3~5年の追跡調査を続けたいという方針が説明されました。参加の先生方からも、この方針を支持し、さらに有意義な研究として発展させることに賛同するとのご意見が表明されました。



研究会のあと、懇親会(クリスマスパーティー)が行われました。

順天堂大学JAZZ部による演奏もあり、リラックスした雰囲気の中、懇談が行われました。

場数を踏んでいるジャズ部の面々も大先輩とのセッションが実現して緊張気味。パーティーが始まる直前まで部室にこもって入念なりハーサルを重ねていました。

船山先生のピアノ「A列車で行こう」、素敵でした



2. 研究予定期間の変更について

12月に開催された病院倫理委員会にて、研究会で説明された試験実施期間の延長が承認されました。症例登録期間が平成23年3月末まで延長されましたので、症例3,000例を目指して、来年も引き続き、患者さんの登録を進めていただくようお願いします。

また、今後の疫学研究への移行に関する詳細は、新たに実施計画書を作成して来年配布致します。治療内容に関わらず3~5年の追跡期間で、疫学研究の倫理指針に基づき実施されるので、別途、承諾書を取っていただく必要がありません。

3. 「症例報告書」をEDC入力しました。

先生方から提出していただいた紙ベースの症例報告書は、データ解析のために、事務局ですべてeCase Linkのデータベースに入力いたしました。

EDCについては、システムの整備が遅れたために、特にretrospectiveデータの入力が出来ないという事態となり、先生方にご迷惑をおかけしましたが、ようやく整備がおわり、使いやすい環境となりましたので、この機会にEDCを是非お試し下さい。

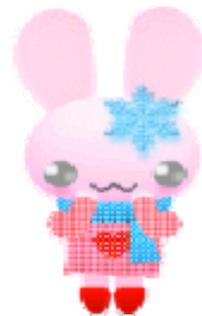
EDCは、Windows環境のパソコンがあればどこでも使えます。申し込み方法などは事務局にお問い合わせ下さい。

4. SPIRITS-J 特製図書カードをお送りします。

症例あたり図書カード1枚を進呈することになっておりますが、とりあえず12月末の時点でご登録いただいた件数について、新年に書留郵便でご送付いたします。よろしくお受け取り願います。

5. シタグリプチンの長期処方ができるようになります。

2011年1月1日より、シタグリプチンの投薬期間制限が解除されます。



SPIRITS-J ホームページ:<http://www.juntendo.ac.jp/jcrc/index.html> (mezase・3000)

順天堂大学循環器内科 代田浩之 大村寛敏

糖尿病内分泌内科 綿田裕孝 三田智也

臨床研究センター 松岡浄 岡崎源一郎 橋本友紀 若菜恵子